

新卒看護師のインターネット環境を利用した 学習サポートに関するニーズ

奥野 信行・堀田佐知子・酒井ひろ子
板倉 勲子・大野かおり・湯舟 貞子
池西 悦子・山本 恭子・大納 庸子
長尾 匡子・真継 和子・稲熊 孝直
内橋 美佳・カルデナス暁東
金原 京子・川村千恵子

1. はじめに

近年、臨床で働く看護師には非常に高度な実践能力が求められ、新卒看護師が有している能力とのギャップが指摘されている。現実的に新卒看護師は、臨床において多くの専門的な知識や技術を習得していかなければならない状況にあり、日本看護協会の調査によると「仕事を続ける上で悩みとなったこと」として「配属部署の専門的な知識・技術の不足」「基本的看護技術の修得不足」「患者のニーズに応えられている自信の無さ」といった看護技術の習得や問題解決能力に関する内容が上位に挙げられている（日本看護協会、2004）。そのため、看護基礎教育、そして新人教育において、こうした臨床実践能力の向上に向けた学習支援の方法やシステムの開発が求められている。その一つとして、インターネット等の情報通信ネットワーク、ICT（information and communication technologies）の活用が、効率的、かつ効果的な教育手法として看護基礎教育や新人教育等において注目されている。例えば、新卒看護師が勤務する病院では、専門的な知識・技術に関する動画やマニュアル等をウェブ上に配信し、新人教育の中で活用する取り組みが行われている（松本、2006；吉永・川村、2006）。看護基礎教育機関においては、主に看護学生を対象としてICTを活用した看護技術教育の取り組み（末次・大池ら、2006）や問題解決能力の育成に向けた取り組み（真嶋・星ら、2006）が行われている。

ただ、これまでの学習教材やシステムの開発は、コンピュータを利用して個人が知識や技術を習得していくための、自己学習支援を主眼としていた。しかし、新卒看護師の直面している難題は、単に知識や技術不足に関連したものだけではない。臨床現場において看護を実践する中で自信を喪失する、あるいは自らが理想としていた看護とのギャップに苦悩する経験、いわゆる「リアリティーショック」（Kramer、1974）に陥り、退職していくケースも少なくない（鶴田、

2002)。つまり、新卒看護師の臨床における看護実践活動の支援を目的に学習環境やシステムの開発を考えた場合、知識や技術の習得だけでなく、そのプロセスにおいて看護師としての自己に対する肯定的な感覚を持つこと、アイデンティティ形成も同時に支援する視点が重要になると言える。このように人が学ぶという営みを、他者やモノとの相互作用を通して知識や技術を構築しつつ、自己のアイデンティティ形成を伴う活動と捉える見方は「状況的学習論 (Situated learning)」(Lave & Wenger, 1991) と呼ばれる。

今回、我々は状況的学習論の観点から新卒看護師の知識や技術の習得、ならびに看護師としての自己に対する肯定的な「アイデンティティ形成」を支援するための ICT を利用した学習環境とシステムの開発に取り組むにあたって、臨床で働く新卒看護師のインターネット環境を利用した学習サポートに関するニーズを明らかにする必要があると考えた。

2. 研究目的

新卒看護師が、インターネット環境を利用して、どのような学習上のサポートを受けることが臨床における看護実践活動に役立つと考えているか。新卒看護師のインターネット環境を利用した学習サポートに関するニーズを明らかにし、その特徴について考察する。

3. 研究方法

3.1. 調査協力者

看護基礎教育課程を修了し、初めて病院で勤務する入職 1 年目の看護師で、研究協力の同意が得られた者。調査用紙は、調査協力者が勤務している病院で研究実施に了解の得られた 10 施設に 228 通配布し、回収数は 86 通（回収率 37.7%）であった。

3.2. データ収集と分析方法

3.2.1. 調査方法

調査方法は、自己記入式質問紙法を用いた。調査対象者にアクセスするまでの方法と実施・回収方法は次のとおりとした。

- 1) 研究協力の要請にあたっては、病院の看護部に、本研究の目的、研究の方法、倫理的配慮に関し、口頭及び文書にて説明を行った上で、同施設の研究協力候補者への調査実施の許可を得た。
- 2) 看護部長から、研究協力者としての条件を満たしている看護師に対して調査票と調査協力のお願い、返信用封筒が入った封筒の配布を依頼した。
- 3) 回収にあたっては、調査票を同封した返信用封筒に回答者自身で厳封後、直接投函を依頼し、返信が得られた場合を研究協力への同意とした。

3.2.2. 調査内容

調査票は、項目を研究者間で検討して、独自に作成した。調査内容は、以下の(1)～(9)である。

- 1) 基本情報(年齢・性別・看護職以外の職業経験・卒業した看護基礎教育課程・所属病院の特徴、病床数・現在所属している部署・プリセプター制導入の有無・同じ病棟での同期看護師の有無・住居形態)
- 2) 臨床での看護実践上での悩みとその内容・対処について
- 3) 看護に関連した悩みや疑問、関心や思いを他者に話す機会の有無と、話す対象について
- 4) 臨床において看護を行う中で詳しく知りたい、学びたいと思うことについて
- 5) 自分の看護に自信をつけていく上で必要に感じている知識・技術について
- 6) インターネットの利用状況(利用頻度・通信機器・利用内容・利用場所・利用環境・勤務施設の電子カルテの導入の有無)について
- 7) 看護に関連したインターネットの利用状況とその内容について
- 8) 看護に関するインターネットサイトの利用経験について
- 9) 看護に活用するためにインターネットを利用する場合の仕組みや内容のニーズについて

3.2.3. データ収集期間

平成20年10月～平成21年3月末日

3.2.4. データの分析

単純集計、ピアソンの相関係数の算出、およびt検定を行い分析した。統計解析にはSPSS ver.11を用いた。自由記載の部分は、記述内容を精読し、内容分析を行った。

4. 倫理的配慮

研究実施に際しては、研究協力者に対して研究に協力することの自由意思を尊重すると共に、プライバシーを保護するために、以下に示す倫理的な配慮を行った。なお、研究は園田学園女子大学生命倫理委員会にて承認を得た上で実施した。

- 1) 本研究は、協力は任意であり、所属されている組織の業務との関連がなく、個人および組織に不利益を与えるものではないこと、いつでも辞退、撤回可能なことを文書にて説明した。研究についての質問や疑問があれば、いつでも尋ねてもらえるように文書にて説明し、研究者の連絡先を明確にした。また、調査票の内容に関して答えたくないと思った場合、内容に対する回答を拒否することが可能であることも文書にて説明した。
- 2) 匿名性と個人のプライバシーを保護するため、調査票は無記名式とし、また返信用封筒にも施設名や氏名を記載せず、協力者自身で調査票を封筒に入れ、投函してもらった。なお、研究結果は、論文として学会および学会誌で発表する予定であることを文書にて説明し、発表にあたっては個々の回答ならびに施設や個人が特定されないようにした。

5. 調査協力者の特性

本研究に協力が得られた新卒看護師 86 名の特性は、表 1 のとおりであった。

表 1 協力者の特性

年齢	20～24 歳	72 名 83.7%	35～39 歳	0 名 0.0%
	25～29 歳	12 名 14.0%	40～45 歳	1 名 1.2%
	30～34 歳	1 名 1.2%		
性別	女性	81 名 94.2%	男性	5 名 5.8%
看護職以外の職業経験	無し	77 名 89.5%	有り	9 名 10.5%
看護職以外の職業経験がある場合の経験年数	職業経験 1～3 年	6 名 66.7%	職業経験 7 年	1 名 11.1%
	職業経験 5 年	1 名 11.1%	職業経験不明	1 名 11.1%
卒業した看護基礎教育課程	看護師養成校 (2 年課程)	1 名 1.2%	短期大学 (3 年課程)	1 名 1.2%
	看護師養成校 (3 年課程)	41 名 47.7%	看護系大学	39 名 45.3%
	短期大学 (2 年課程)	1 名 1.2%	看護師養成校 (5 年一貫)	3 名 3.5%
所属病院の特徴	主として長期療養に対応する病院	1 名 1.2%	重度心身障害児 (者) 医療を行なう病院	0 名 0.0%
	主として精神医療を行なう病院	0 名 0.0%	特定機能病院 (大学医学部附属病院等)	39 名 45.3%
	リハビリテーション専門病院	0 名 0.0%	1～5 以外の一般病院	46 名 53.5%
所属病院の病床数	20～99 床	1 名 1.2%	400～499 床	11 名 12.8%
	100～199 床	6 名 7.0%	500～599 床	1 名 1.2%
	200～299 床	7 名 8.1%	600～699 床	1 名 1.2%
	300～399 床	16 名 18.6%	700 床以上	43 名 50.0%
現在所属している部署 (病棟)	内科病棟	12 名 17.6%	集中治療室	4 名 4.7%
	外科病棟	19 名 27.1%	手術室	1 名 1.2%
	混合病棟	26 名 24.7%	救命・救急病棟	7 名 8.1%
	小児病棟	3 名 5.9%	外来	5 名 5.8%
	産科・婦人科病棟	6 名 8.2%	放射線科、救急外来	1 名 1.2%
	精神科病棟	1 名 1.2%	透析室	1 名 1.2%
所属場所におけるプリセプター制導入の有無	有り	86 名 100%	無し	0 名 0.0%
同じ病棟に 1 年目の看護師はいるか	いる	78 名 90.7%	いない	8 名 9.3%
居住形態	独り暮らし	63 名 73.3%	子供と同居	0 名 0.0%
	親と同居	20 名 23.3%	友人と同居	0 名 0.0%
	兄や姉、弟、妹と同居	1 名 1.2%	その他	0 名 0.0%
	配偶者と同居	2 名 2.3%		

6. 結 果

6. 1. 新卒看護師の学習に関わる状況について

6. 1. 1. 看護を行う上での新卒看護師の悩みや問題と感じている事とその対処

「臨床において看護を行う中で、悩んだり、問題を感じたりしますか」という質問に対して、「よく有る」と回答した新卒看護師は全回答 86 名中 50 名 (58.1%)、「まあまあ有る」が 34 名 (39.5%) であった。「あまり無い」は 2 名 (2.3%) で「無い」は 0 名 (0.0%) であった。

また、「悩みや問題と感じていること」についての自由記載を内容分析した結果、【知識や技術の不足】に関する記述が最も多く、96 記録単位中 31 記録単位 (32.3%) であった。次に多かった記述は【患者や家族との関わり】で 14 記録単位 (14.6%)、【職場の人間関係】【自分の看護への自信の欠如や不確かさ】は各 10 記録単位 (10.4%)、【業務の多忙さ】が 9 記録単位 (9.4%)、【未経験の処置への対応】が 6 記録単位 (6.2%)、【ミスへの恐れ】【先輩看護師の指導】が各 3 記録単位 (3.1%)、【先輩看護師に聞けないこと】が 2 記録単位 (2.1%) であった。その他、【体調管理】【責任の重さ】【職場との適合】についての記述が各 1 記録単位 (1.0%) であった。

悩みや問題と感じていることへの対処方法についての自由記載で最も多いのは、「先輩看護師への相談」「カンファレンス」といった【職場の先輩看護師への支援の要請】で 107 記録単位中 45 記録単位 (42.1%) であった。次に多かった記述は「自己学習」「実践経験の積み重ね」「業務時間のマネジメント」といった【自分自身での学習を通じた対処】で 32 記録単位 (29.9%)、「同僚への相談」「同僚との勉強会」といった【同僚との学び合い】が 14 記録単位 (13.1%)、「友人への相談」「医療職ではない他者への相談」「看護師である身内への相談」といった【職場以外の他者への相談】が 6 記録単位 (5.61%)、「休日のリフレッシュ」「ポジティブに考える」「よく寝る」といった【切り替え】が 4 記録単位 (3.7%)、「あきらめる」「対処できないまま」「特にしない」といった【未対処】が 4 記録単位 (3.7%)、「泣く」といった【感情の発散】が 2 記録単位 (1.9%)、【医師への相談】が 1 記録単位 (0.9%) であった。

6. 1. 2. 看護に関連した悩みや疑問、関心や思いを他者と話す機会について

「看護に関連した悩みや疑問、関心や思いを他者と話す機会がありますか?」という質問に対して、最も多かった回答は「まあまあ有る」で 47 名 (54.7%)、次が「よく有る」で 32 名 (37.2%) であった。「あまり無い」は 7 名 (8.1%)、「無い」は 0 名で、9 割以上の新卒看護師が看護に関連した悩みや疑問、関心や思いを他者に話していた。具体的に話す他者についての複数回答で最も多かったのは「同じ病棟の新卒看護師」で、57 名 (66.3%)、次が「プリセプター」で 43 名 (50.0%) であった。次が「同じ病棟の先輩看護師」の 40 名 (46.5%) で、「他の病棟の新卒看護師」「卒業した看護基礎教育機関の友人」が各 33 名 (38.4%)、「両親」が 20 名 (23.3%)、「看護職以外の友人」は 12 名 (14.0%)、「看護師長」が 9 名 (10.5%)、「卒業した看護基礎教育機関の教員」は 4 名 (4.7%) であった。

6. 1. 3. 臨床において看護を行う中で詳しく知りたい、学びたいことについて

「臨床において看護を行う中でもっと詳しく知りたい、学びたいと思うことはありますか」という質問に対して、最も多かった回答は「よく思う」で51名(59.3%)、次が「まあまあ思う」23名(26.7%)であった。「あまり思わない」は10名(11.6%)、「思わない」は1名(1.2%)、無回答が1名(1.2%)と、9割近くの新卒看護師が臨床において看護を行う中で詳しく知りたい、学びたいと考えていた。

「詳しく知りたい、学びたいと思うこと」の具体的な内容に関する自由記載の内容分析を行った結果、【疾患・病態・治療についての知識】に関する記述が最も多く、81記録単位中32記録単位(39.5%)であった。次に多かった記述は「人工呼吸器について」「症状緩和の看護」など【配属病棟の特殊性に関連した看護の専門的知識】で16記録単位(19.7%)、続いては「安楽な体位変換」「看護技術やケア」など【基本的な看護技術】で12記録単位(14.8%)、【薬についての知識】【患者の急変や重症化に対応する知識・技術】【患者の心理とそのケアに関する知識・技術】は各5記録単位(6.2%)、「フィジカルアセスメント」「看護アセスメント」など【適切な臨床判断のための知識・技術】が3記録単位(3.7%)、【最新の看護】が2記録単位(2.5%)、【看護倫理】が1記録単位(1.2%)であった。

また、その内容を挙げた理由として最も多かったのは、「出来るだけ患者様にとってよりよいケアを行っていきたいと思うので」「患者さんの質問や不安な気持ちに応えられないと思うから」といった【より質の高い看護の志向】で45記録単位中12記録単位(26.7%)であった。次に多かったのは【知識不足の実感】の11記録単位(24.4%)で「日常の業務の中で知識不足を感じることが多いので」「疾患を理解出来ていない」という回答があった。続いては「夜勤時など急変があると慌ててしまうことが多いため」「最近褥瘡処置が多いので」といった【臨床実践での即時的活用】で10記録単位(22.2%)、「一人前の看護師としてアセスメント出来る能力がほしい」「日々向上していききたい」など【臨床実践能力の獲得と向上】は9記録単位(20.0%)であった。その他、「分かることで、おもしろくなると思うから」といった【知的・実践的好奇心】が3記録単位(6.67%)であった。

6. 1. 4. 自分の看護に自信を持つために必要と感じる知識、技術について

「ご自分の看護にもっと自信をつけていく上で必要だと感じている知識や技術はありますか」という質問に対する回答は、「ある」が最も多く、80名(93.0%)であった。「ない」は4名(4.7%)、「無回答」は2名(2.3%)であった。

「どのような知識や技術が持てると自分の看護にさらに自信が持てますか」という質問に対する自由記載を内容分析した結果、「清拭・体位変換・オムツ交換など毎日実施するケア」「末梢静脈ラインの確保」「採血」などの【基本的な看護技術】と、「レスピレーター装着患者の看護」「救急時の対応」など【患者の急変や重症化に対応する知識・技術】に関する記述が最も多く81記録単位中各16記録単位(19.7%)であった。次に多いのが、「心電図について」「嘔気や倦怠感、痛みを和らげる知識・技術」といった【配属病棟の特殊性に関連した看護の専門的知識】で

14 記録単位 (17.0%)、続いて「消化器や循環器、脳神経についての知識」「疾病や治療の知識」など【疾患・病態・治療についての知識】の 13 記録単位 (16.0%) であった。「観察」「患者さんの症状からこれからどうなっていくか予測出来る」といった【適切な臨床判断のための知識・技術】は 5 記録単位 (6.2%)、【ターミナルケアに必要な知識・技術】【コミュニケーションに必要な知識・技術】【患者の心理とそのケアに関する知識・技術】が各 3 記録単位 (3.7%)、【薬についての知識】は 2 記録単位 (2.5%)、【家族看護】が 1 記録単位 (1.2%) での回答があった。「たくさんあります」「臨機応変に動けるような知識、技術、すべて」といった【看護に必要な知識・技術全般】を挙げる記述が全体のうち 5 記録単位 (6.2%) があった。

また、その内容を挙げた理由として最も多かったのは、「経験したことの少ないことが多い」「実際病棟で働くとはわからないことだらけで、もっと勉強しないといけないし、いろんな経験しないと身につかないと思った」といった【知識や経験不足を感じるため】で 48 記録単位中 12 記録単位 (25.0%) であった。次に多かった記載内容は、「看護をする上で知っておかないと困るし、良い看護ができない」「心電図は急変時の対応をするのに何よりも重要だったから」といった【臨床での必要性を感じるため】で 11 記録単位 (22.9%) であった。続いて、「どんな時も、すぐに早期発見や対処が出来ると考えるため」など【臨床実践能力の獲得と向上のため】が 9 記録単位 (18.7%)、「その人その人で最適なことが違うので、その人に合ったケアをしたいから」など【より質の高い看護を提供したいため】、そして「自信を持って気持ち良くなるよう患者様と接したいから」など【自分の看護に自信を持つため】はそれぞれ 8 記録単位 (16.7%) であった。

6. 2. 新卒看護師のインターネットの利用について

6. 2. 1. 日常的なインターネットの利用状況について

新卒看護師の日常的なインターネットの利用状況については、「ほぼ毎日」が最も多く、40 名 (46.5%) であった。次いで、「週に 2~3 回」の 17 名 (19.8%) で、「週に 1 回」が 16 名 (18.6%)、「1 月に 1 回」は 6 名 (7.0%)、「利用しない」は 4 名 (4.7%) であった。「その他」は 3 名 (3.5%) で、その他に関する自由記載内容は「時々」「用があれば」であった。

6. 2. 2. 使用している通信機器について

インターネットを利用していると回答した新卒看護師に、その際に使用している通信機器について複数回答で質問したところ、最も多いのは「パソコン」で全回答者 82 名中 78 名 (95.1%) であった。次いで多いのが「携帯電話」で 57 名 (69.5%) であった。この両者は併用されており、携帯電話を単独で使用している新卒看護師は 2 名であった。

6. 2. 3. インターネットの利用内容について

新卒看護師のインターネットの利用内容について複数回答で質問したところ、最も多いのは、「知りたい情報やニュース等についての検索」で全回答 82 名中 73 名 (89.0%)、次いで「趣味に関連したサイトを見る」が 68 名 (82.9%) であった。続いて「メール」が 41 名 (50.0%)、「音

楽や動画、ソフトのダウンロード」が33名(40.2%)、「SNS (mixi など) や掲示板」が29名(35.4%)、ショッピングが26名(31.7%)、MSN メッセンジャーなどのインスタントメッセージャーが8名(9.8%)、「自分のブログの書き込み」が6名(7.3%)、「オンラインゲーム」が3名(3.7%)「自分のホームページの運営」が1名(1.2%)であった。「その他」は3名(3.7%)であった。その他と回答した3名の利用内容は「芸能人のブログを見る」「看護・医療について調べる」「疾患や薬について調べる」であった。

6. 2. 4. インターネットを利用する主な場所について

インターネットを利用していると回答した新卒看護師の利用する場所で最も多いのは、「自宅」で全回答82名中79名(96.3%)であった。次に多いのは「病院」で11名(13.4%)、続いて「インターネットカフェ」「実家」「無回答」はそれぞれ2名(2.4%)であった。

6. 3. 新卒看護師の看護に関するインターネットの利用について

6. 3. 1. 新卒看護師のインターネットの看護への利用度とその内容

看護に関する知識や情報を得るためのインターネットの利用については、「まあまあ利用する」が全回答86名中35名(40.7%)と最も多かった。次が「よく利用する」の30名(34.9%)で、75.6%の新卒看護師がインターネットを看護に利用していた。「あまり利用しない」は16名(18.6%)、「利用しない」が5名(5.8%)であった。

「どのようなことに利用するか」についての自由回答形式の質問に対する回答を内容分析した結果、「疾患や治療、病態生理のことを調べる」「疾患の勉強のとき」など【疾患・治療・検査・処置・薬についてわからないことを調べたり、学習したりするため】が最も多く、59記録単位中57記録単位(96.6%)であった。利用理由の自由記載からは、情報の「新しさ」「わかりやすさ」「多さ」、入手にあたっての「手軽さ」「手早さ」という点で書籍と差別化していた。その他、【看護を必要とする人々の体験や思い、考えを知るため】【研修会等の情報を得るため】が各1記録単位であった。

また、新卒看護師の日常的なインターネット利用度と看護に関する知識や情報を得るためのインターネット利用度の相関を算出した結果、有意な相関を認めた($r=0.441$, $p<0.001$)。

6. 3. 2. インターネットの利用環境について

「病院内にインターネットを手軽に行えるパソコンはありますか」という質問に対しては、「はい」が55名(64.0%)、「いいえ」が31名(36.0%)であった。「ご自宅にインターネットを手軽に行えるパソコンはありますか」という質問に対しては、「はい」が67名(77.9%)、「いいえ」が19名(22.1%)であった。

新卒看護師が勤務している病院の電子カルテの導入については、「はい」と回答した者が48名(55.8%)、「いいえ」が38名(44.2%)で電子カルテを導入している施設の方がやや多かった。また、電子カルテの導入の有無による看護に関する知識や情報を得るためのインターネットの利用度の得点(4件法)に差があるかどうかについてt検定を行ったところ有意差は認めなかつ

た。

6. 3. 3. 既存の看護に関するインターネットサイトの活用状況について

新卒看護師の既存の看護に関するインターネットサイトの活用状況について、看護に関連した情報を得られやすいと思われるホームページ名を提示し、複数回答にて利用状況を調べた結果、最も多かったのは「無回答」で38名(44.2%)であった。最も利用されているインターネットサイトは「Yahoo!知恵袋」で36名(41.9%)が選択していた。次に多く利用されているインターネットサイトは「看護師さんのための悩み相談所」で6名(2.3%)、看護ネットが7名(8.1%)、ナースカフェが5名(5.8%)、OKwaveが2名(2.3%)、サードプレイス(看護師専用SNS)が1名(1.2%)であった。「その他」に回答した者は8名(9.3%)であった。「その他」に回答した8名のうち具体的に利用しているインターネットサイトの記述があったのは2名で、「google」と「難病情報センター」を挙げていた。

6. 3. 4. インターネット上の看護に関するホームページにおける利用ニーズについて

「インターネット上の看護に関するホームページにおいて、どのような仕組みや内容があると利用したいと思うか」という複数回答による質問を行ったところ、最も多かったのは「採血やフィジカルアセスメントなど、看護技術に関する動画や手順を見ることができるコンテンツ」で59名(68.6%)であった。次ぎに多かった回答は「看護について分からないことがあったら、気軽に質問出来る相談用掲示板」で41名(47.7%)、続いて「学会や研究会、研修会に関する情報が得られるコンテンツ」が32名(37.2%)、「看護上の悩みや問題解決に向けて看護者同士で話し合えるコミュニケーションツール」が18名(20.9%)、新卒看護師同士で気軽に交流し、コミュニケーションが出来る掲示板やチャット」が11名(12.8%)、「ブログなど、看護と関係なく、自分のことを情報発信したり、他者のことを知ることが出来たりするコンテンツ」が7名(8.1%)であった。「その他」と回答した者は2名(2.3%)で、希望する内容としては「病態生理・症状を踏まえた上でどんな看護が必要かを見れるようなサイト」「検査(胃カメラ、大腸ファイバー、UCG、心電図、心臓カテーテル検査等)の正常・異常の動画」であった。「無回答」は9名(10.5%)であった。

7. 考 察

7. 1. 新卒看護師の臨床における看護実践上の課題について

6. 1. 1. の結果から、臨床において看護を行う中で新卒看護師の98%が悩んだり、問題を感じたりしていることがわかる。また、その具体的な内容としては、職場適応や人間関係による悩みもあるが、【知識や技術の不足】【患者や家族との関わり】【自分の看護への自信の欠如や不確かさ】【未経験の処置への対応】など学習面に関連するものが上位を占めている。そのような悩みや問題に対して、【職場の先輩看護師への支援の要請】や【自分自身での学習の取り組み】、【同僚との学び合い】により、解決を試みている

また、6. 1. 3. の結果にも示すとおり、臨床において看護を行う中で、「もっと詳しく知りたい、学びたい」と9割近くの新卒看護師が思い、その理由として【知識不足の実感】や【臨床実践能力の獲得と向上】を挙げている。そして、6. 1. 4. の結果においても「自分の看護により自信をつけていくために必要な知識や技術がある」と9割以上の新卒看護師が思っている。

以上の結果から、今まで繰り返し議論されてきた（井部ら、1999；厚生労働省、2003、2004）とおり、新卒看護師は自己の看護実践レベルと臨床に求められているレベルとの間に大きなギャップを実感していることがわかる。また、そうしたギャップを感じ、看護に関する悩みや問題を抱きつつも、その解決や能力向上に向けた学習意欲を高く持っていることも伺える。こうした状況からは、新卒看護師が臨床における看護上の課題を解決していくことが出来るような学習サポートの必要性が見出せる。

7. 2. 新卒看護師の臨床での看護実践に関連した学習ニーズについて

6. 2. の結果に示すとおり、約7割の新卒看護師は、インターネットを「週に2～3回」以上の頻度で利用しており、「週に1回」を合わせると8割を超えている。利用内容としても「知りたい情報やニュース等についての検索」が89%と高く、インターネットを利用して知りたい情報を主体的に検索し、入手している。このことから、新卒看護師に対してインターネット環境を活用した学習サポートを提供した場合に、それらの十分な活用が期待出来る。

また、6. 3. 1. に示すとおり約8割の新卒看護師が看護に関する知識や情報を得るために、インターネットを利用している。そして、利用理由の自由記載からは、情報の「新しさ」「わかりやすさ」「多さ」、入手にあたっての「手軽さ」「手早さ」という点で書籍と差別化していることがわかった。新卒看護師の日常的なインターネット利用度と看護に関する知識や情報を得るためのインターネット利用度は相関しており、日常的にインターネットを利用している新卒看護師は、看護に関する知識や情報について調べる時にもインターネットを利用することが多いこともわかった。以上の結果から、臨床における看護実践活動に役立てるためにインターネット環境を利用した学習上のサポートについての新卒看護師のニーズは高いと考えられる。

しかしながら、6. 3. 3. に示すとおり、既存の看護に関するインターネットサイトの活用状況についての回答は、44%が「無回答」であった。この結果からは、新卒看護師は、特定のインターネットサイトを利用するのではなく、複数のインターネットサイトから情報を得ていると思われる。また一方で、新卒看護師にとって臨床での看護やその学習活動に役立つ知識や情報の充実していると感じられるサイトが存在していないことも考えられる。そのため、新卒看護師が、自己の看護やその学習活動に役立てられると感じられるコンテンツを充実させていくこと、さらに情報の「新しさ」「わかりやすさ」「多さ」、入手にあたっての「手軽さ」「手早さ」という要素もインターネット環境を利用した学習サポートにおいて重要であると思われる。

7. 3. 新卒看護師の求める看護に関するインターネットコンテンツについて

新卒看護師はインターネット環境を利用してどのような学習上のサポートを受けることが臨床における看護活動に役立つと考えているのかを考察するにあたって、6. 1. 3. の知りたい学びたい内容、6. 1. 4. の看護に自信を持つための知識や技術内容、6. 3. 1. のインターネットの利用内容の記述を分類すると、新卒看護師は、次の①～⑬の知識や技術を臨床での看護活動において役立つ知識・技術として捉えていると考えられる。①疾患・病態・治療についての知識、②基本的な看護技術（清拭や体位変換など）、③適切な臨床判断のための知識・技術（フィジカルアセスメントなど）、④配属病棟の特殊性に関連した看護の専門的知識（心電図読解など）、⑤患者の急変や重症化に対応する知識・技術、⑥薬についての知識⑦患者の心理とそのケアに関する知識・技術、⑧看護を必要とする人々の体験や思い、⑨家族看護、⑩ターミナルケアに必要な知識・技術、⑪コミュニケーションに必要な知識・技術、⑫看護に関する最新の情報、⑬研修会等の情報、が臨床での看護活動において役立つ知識・技術。そのため、インターネット環境を利用した新卒看護師の学習サポートを考えた場合、新卒看護師が必要を感じている知識や技術の配信、あるいは、それに関連する知的リソースの紹介がなされていることが重要であると思われる。

その他、6. 1. 2. の結果では、新卒看護師の9割以上が「看護に関連した悩みや疑問、関心や思いを他者に話すこと」が出来ていることが明らかになった。また、その約7割の新卒看護師が、話す対象として「同じ病棟の新卒看護師」を挙げていることから、「同じ志の者、同じものごととの出会いをおもしろく感じられたり、意味あることとして探求を共有できたりする」（秋田、1998、p.279）ことのできる仲間、つまり同じような状況にある他者との同僚性（collegiality）の構築が重要であることがわかる。こうした同僚性は、インターネットを利用してウェブ上で交流することでも築くことが可能で、6. 3. 4. の回答でもそのニーズがあった。新卒看護師の約1割が他者に話す機会が「あまり無い」と回答しているが、同じ職場や施設に「話せる他者」が居ない場合であっても、インターネットを介して、職場以外の他者と交流し、看護に関連した悩みや疑問、関心や思いを語り合うことが出来る。それは、新卒看護師への学習サポートだけでなく、心理的サポートにもつながるのではないかと考える。

8. 結 論

今回、新卒看護師のインターネット環境を利用した学習サポートに関するニーズとその特徴を明らかにすることを目的として本研究に取り組んだ結果、以下の結論を得た。

- 1) 臨床において看護を行う中で新卒看護師の98%が悩んだり、問題を感じたりしていること、9割以上の新卒看護師が自分の看護により自信をつけていくために必要な知識や技術があると思っていること、さらに9割近くが臨床において看護を行う中でもっと詳しく知りたい、学びたいと考えていることが明らかになった。このことから、新卒看護師は看護実践レベルと臨床に求められているレベルとの間に大きなギャップを実感しつつも、その解決や能力向上に

向けた学習意欲を高く持っており、そのための学習上のサポートの必要性が示唆された。

- 2) 新卒看護師の多くは、日常的にインターネットを利用しており、看護に関する知識や情報について調べる時にもインターネットを利用することが多いことがわかった。このことから臨床における看護実践活動に役立てるためにインターネット環境を利用した学習上のサポートについての新卒看護師のニーズは高いと考えられた。
- 3) 新卒看護師が自己の看護やその学習活動に役立てられると感じられるコンテンツの充実、さらに情報の「新しさ」「わかりやすさ」「多さ」、入手にあたっての「手軽さ」「手早さ」という要素が、インターネット環境を利用した学習サポートにおいて重要であることが示唆された。
- 4) 新卒看護師は、①疾患・病態・治療についての知識、②基本的な看護技術、③適切な臨床判断のための知識・技術、④配属病棟の特殊性に関連した看護の専門的知識、⑤患者の急変や重症化に対応する知識・技術、⑥薬についての知識⑦患者の心理とそのケアに関する知識・技術、⑧看護を必要とする人々の体験や思い、⑨家族看護、⑩ターミナルケアに必要な知識・技術、⑪コミュニケーションに必要な知識・技術、⑫看護に関する最新の情報、⑬研修会等の情報、が臨床での看護活動において役立つ知識・技術として捉えていることが考えられた。そのため、インターネット環境を利用した新卒看護師の学習サポートを行う場合、このような新卒看護師が必要性を感じている知識や技術の配信、あるいは、それに関連する知的リソースの紹介がなされていることが重要であると考えられた。

謝辞

本研究にご協力頂きました各病院の看護管理者様、新卒看護師の皆様へ厚く御礼申し上げます。

本研究は、平成20年度園田学園女子大学・園田学園女子大学短期大学部共同研究の助成を受けて実施した研究の一部である。

文献

井部俊子 (1999) : 看護教育における卒後臨床研修のあり方に関する研究－新卒看護婦・士の臨床実践能力とその成長や変化に影響を及ぼした要因について－. 平成10年度厚生省科学研究.

Jonassen, D. (1991) : Objectivism vs. constructivism. Do we need a new paradigm? Educational Technology Research & Development, 39(3), pp.5-14.

Jonassen, D., Davidson, M. Collins, M., Campbell, J., & Haab, B. B. (1995) : Constructivism and computer-mediated communication in distance education. The American Journal of Distance Education, 9(2), pp.7-25.

厚生労働省 (2003) : 看護基礎教育における技術教育のあり方に関する検討会報告書.

厚生労働省 (2004) : 新人看護職員の臨床実践能力の向上に関する検討会報告書.

Kramer, M. (1974) : Reality shock : why nurses leave nursing. C. V. Mosby Co.

Lave, J. & Wenger, E. (1991) / 佐伯胖訳 (1993) : 状況に埋め込まれた学習－正統的周辺参加－. 産業図書.

松本喜代子 (2006) : 新人教育支援のためのメディカル e ラーニングシステム構築 新人教育におけるその活用の効果, 看護管理, 16(2), pp.118-123.

真嶋由貴恵・星和美・細田泰子・前川泰子・野矢美佐子・森木ゆう子・葉山有香・小笠幸子 (2006) : 看護問題解決能力の育成を目的としたインストラクショナルデザイングループワークとピアレビューを取り入れて－, 日本教育工学会第22回全国大会講演論文集, pp.1031-1032.

- 中原淳 (2004)：教師の学習共同体をつくりだすーコンピュータに媒介された協調学習のデザインと介入ー，石黒広昭／編著，社会文化的アプローチの実際 学習活動の理解と変革のエスノグラフィー，北大路書房，pp.186-208.
- 小澤三枝子・水野正之・佐藤エキ子・高屋尚子・正木治恵・廣瀬千也子・竹尾恵子 (2007)：新人看護職員研修の推進に関する研究，国立看護大学校研究紀要，6(1)，pp.3-9.
- 末次典恵・大池美也子・大喜雅文・長家智子・北原悦子・原田広枝・山本千恵子，井上仁 (2006)：基礎看護技術教育における WebCT 教材の活用状況 平成 17 年度の実施状況から，第 7 回看護情報研究会論文集，pp.83-86.
- 日本看護協会 (2004)：新卒看護職員の早期離職等実態調査報告書，日本看護協会中央ナースセンター編，社団法人日本看護協会.
- 鶴田早苗 (2002)：新卒者の不適応問題及び教育を考える．看護展望，27(4)，pp.423-428
- 吉永富美 川村久美子：WEB 型 e-ラーニングシステムを利用した教育・学習プログラムの構築，第 7 回看護情報研究会論文集，pp.154-156.
- Wenger, E., McDermott, R. & Snyder, M. W. (2002)／櫻井祐子 (2002)：コミュニティ・オブ・プラクティスーナレッジ社会の新たな知識形態の実践，翔泳社.

[おくの のぶゆき 看護学]
 [ほりた さちこ 看護学]
 [さかい ひろこ 藍野大学医療保健学部 看護学]
 [いたくら いさこ 看護学]
 [おおの かおり 看護学]
 [ゆふね さだこ 看護学]
 [いけにし えつこ 看護学]
 [やまもと ゆきこ 看護学]
 [おおの ようこ 看護学]
 [ながお きょうこ 看護学]
 [まつぎ かずこ 看護学]
 [いなぐま たかなお 教育工学]
 [うちはし みか 目白大学 教育工学]
 [かるでなす しゃおどん 看護学]
 [きんばら きょうこ 看護学]
 [かわむら ちえこ 看護学]